

## 研修会：銚子ジオパークに行こう

藤田英忠（東金市）

日時：2016年8月9日（水）8：30～18：30 天気：晴れ（猛暑）

場所：銚子市犬吠埼他 参加者：指導員24名＋会員外2名

講師：藤田英忠（東京地学協会会員）、銚子ジオガイドの岩本氏他4名

銚子は日本のジオパーク32の一つに選ばれた。“ジオ”すなわち地質地形のテーマパークだ。千葉県海岸植物の花写真を撮る調査も兼ね、学びに行ってきた。行きのバス中では地質担当の講師：藤田から、ジオパークって何だ、銚子ジオパークの見方、千葉県全体の地質から見た銚子ジオパークの重要性、そして銚子の大地の成り立ちを予備知識として説明をした。銚子ジオパークの価値ポイントはいくつかある。一つは、ジオサイト犬吠埼や名洗港近くでは千葉県で一番古い中生代地層ジュラ紀から白亜紀の地層が見られる。また、屏風ヶ浦ではそれよりずっと新しい新第三紀から第四紀の見事な地層が厚さ約60m約10kmにわたり見られることである。しかもここでは第三紀と第四紀の境界層と考えられる火山灰がキーベッド（鍵層）として挟まっている。これは、丹沢噴火の時のテフラ（250万年前のNaザクロ石軽石）が250万年前にここまで降灰したことによる。

十時半ごろ犬吠埼に到着、待っていてくれた5名のジオガイドが早速、波しぶきが被る崖下までの遊歩道を案内してくれた。遊歩道沿いにはハマシャジン、ハマサワヒヨドリ、イソギク、ハマタカトウダイ、ノアザミの花をガイドの保立さんが示してくれた。下の磯にたどり着くと地質に詳しいガイドの岩本さんが、白亜紀の堅い砂岩泥岩の互層が波に洗われ洗濯板のようにむき出しになっている地層に生痕や漣痕を示してくれた。以前に採集された化石アンモナイト、トリゴニア（三角貝）のレプリカを通して、遠く恐竜のいた時代の白亜紀の海に思いをはせた。昼食はやはり白亜紀のチャートが入った礫岩が見られる、黒生海岸のいけす料理屋で刺身料理に舌鼓。

午後は、千葉科学大学がある名洗港の海岸。左の犬岩ではハマカンゾウやスカシユリ、イソギク、ハマアキノキリンソウ、ハチジョウススキがみられた。犬岩は犬の遠吠えの姿をした愛宕山層（ジュラ紀砂岩）が黒々と光っていた。この愛宕山層はいっきに1億2000万年以上の隔たりを隠して不整合で上の名洗層に接していた。この名洗層より上部の地層は次の屏風ヶ浦に見られた。海岸右手には屏風ヶ浦の見事な地層が見え出した。岩本さんが丹沢ザクロ石軽石層が手に取るように見られるところまで、地層の説明や崩壊の説明をしながら案内してくれた。

最後は、涼しい千葉科学大学喫茶店で市職員より自然災害の防災について銚子市の取り組みを聞き、銚子ジオパークの勉強会は終わった。地球大地の気の遠くなるような長い時間も短く感じられた一日でした。



犬岩での地層の説明